

なぜ「今」ワンマン化なのか 会社に「突きつける」闘いを



会社は来春での中央・総武緩行線、28年春での千葉以東線区の全面ワンマン化を打ち出した。千葉の車掌約600人の大部分から職場を奪う大攻撃です。会社はなぜ今、一挙に攻撃を進めようとしているのでしょうか。

現場を諦めさせるペテン

一般的には、「人口減少で要員が確保できなくなる」「AIなどの技術の進歩」などが理由に挙げられています。

しかし、ワンマン化や列車の自動運転に使われている技術は決して新しいものではありません。「要員不足」が本当なら、乗務員に対して、乗務手当廃止や融合化、運転士職・車掌職の廃止といった仕打ちをするはずがありません。どちらにも、「仕方のないこと」と、現場の労働者を諦めさせるためのペテンです。

全面的なワンマン化で様々な矛盾が吹き出ることには会社も分かっています。実際、南武線では遅れが激増し、外房線では2両編成でさえ乗客が転倒・骨折する大事故が起きたのです。だから、会社も踏み切れずにきたのです。

会社が見くびっているもの

それでも会社が攻撃に踏み切った最大の理由は、「職場からの抵抗は受けない」と高をくくっていることです。

どんなに会社がないがしろにしようと、鉄道の安全と日々の運行を守っているのは現場の労働者です。矛盾だらけなのは会社自身が分かっています。それでもジョブローテーション、融合化、乗務手当廃止ときて、何をやってもなし崩しで進められると考えているのです。

打開のカギは現場からの闘い

この間、現場をないがしろにし続ける施策や、理不尽な扱いに多くの仲間が我慢を強いられました。退職に追い込まれた仲間も多くいます。会社はそこからさらに、数百人単位の職場を一挙に奪おうとしているのです。どうしても許すことはできません。

この職場の現実を打開するカギは、現場から反撃の闘いに立ち上がることです。「こんなことをやれば列車くらい止まる」と会社に突きつける闘いが必要です。その闘いは、この現実を社会的に明らかにする力もあります。

今こそ職場に闘う労働組合を取り戻そう。「ワンマン化絶対反対」の声をあげ、動労千葉とともに闘おう。